

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2023年8月から2023年12月
派遣大学名	ガジャマダ大学	所属学部等	農学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Traditional Fermented Food of Indonesia	PNM20193122	2	プレゼンやポスター制作があった。
Egg Science and Technology	PTH2115306	2	実習とセットの授業だった。
Agricultural Sociology	PNP20191101	2	プレゼンやグループワークが多かった。
Marine Biology	PIA20191151	2	テストは選択式と、記述問題。プレゼンがあった。
Microbial Bioremediation in Agriculture	PNM20193121	2	授業スライドが多かった。専門用語が難しかった。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00 ～ 08:50	Traditional Fermented Food of Indonesia		Egg Science and Technology (07:15～ 08:30)				
09:00 ～ 10:50			Agricultural Sociology	Marine Biology	Microbial Bioremediation in Agriculture		
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
集中講 義等	Egg science and technology 10/21,22,23						

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：1時間目の開始時間がとても早かった。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応			○		
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：大学の教室内は冷房が効いていて、少し寒かった。					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

全体的にプレゼンテーションやグループワークを行う授業が多かった。内容は、日本で学んだことも多くあったので理解することができた。

-Traditional Fermented Foods of Indonesia

インドネシアの伝統的な発酵食品について知ることができた。特徴や製造方法などについて学ぶことができた。

-Egg Science and Technology

卵の構造や機能などについて学ぶことができた。実習では実際に卵の品質を観察したり、マヨネーズを作ってその製品を観察したりした。

-Agricultural Sociology

現在の農業の状況について学ぶことができた。インドネシアや日本、ベトナムなどそれぞれの国の農業について知ることができた。また、農業を発展させる方法について考えることができた。

-Marine Biology

海の生態系について学ぶことができた。今まで海について詳しく学んだことがなかったので、とても勉強になった。

-Microbial Bioremediation in Agriculture

バイオレメディエーションについて学ぶことができた。どのような微生物が使用されるのか、またどのような機構で汚染土壌が浄化されるのか知ることができた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

専門的な用語など分からない単語はその都度、調べながら授業に取り組んだ。テストは、授業スライドをもとに内容を復習した。スライドはテストの1週間など、直前に送られてくることが多かった。量が多かったり、インドネシア語で書かれている部分もあったのでまず全体を翻訳して内容を理解するようにした。その後、自分の言葉で内容を説明できるようにした。テストの構成は、選択問題と記述問題があり、記述問題の方が多かった。

また、上記に記載したように、授業ではプレゼンテーションやグループワークを行う機会が多かった。現地の大学の人達はたくさん話しかけてくれた。積極的に話しかけることができなかったので話せるとよかったと思った。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

インドネシアの食べ物はとてもおいしかった。大学の学食には様々なインドネシア料理があったので、試すことができた。休日には、美術館や遺跡へ行って歴史や文化に触れることができた。

大学内外問わず、話しかけてくる人が多かった。

また、日本とは異なる環境を知ることができた。野良猫やニワトリ動物が道を歩いていることに驚いた。道路には、バイクや車であふれていることに驚いた。信号はなく道を渡ることには苦労した。

しかし、近くには大きなショッピングモールがあったり、電子決済の店があったりと近代化が進んでいる点もあると知ることができた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

私は今まで海外に行ったことがなかった。今回、インドネシアに行ったことで多様な価値観を知ることができた。授業では、インドネシアの農業の現状などを学ぶことができた。例えば、インドネシアの農業人口は、若い世代がいることを知った。それに対して、日本や茨城について聞かれることも多かったが、詳しくは知らないこともあった。大学の人々は、話しかけてくれることが多く、日本に興味を持ってきていて質問されることもあった。私は日本についての情報も、さらに詳しく知っていく必要があると思った。これから先、日本の企業は、海外に進出したり、外国の方が採用されたりすることがさらに増えると思う。そのような企業に勤めた場合、その国の価値観を知ったうえで尊重できるようにしたい。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

ガジャ・マダ大学の人々は、みんな親切で安心して過ごせたことが良かった。大学の人々は、よく話しかけてくれて、困ったときもすぐに助けてくれたので心強かった。例えば、私が熱を出したときも病院へ行くのに付き添ってくれた。休日には、一緒に遊びに行ってお楽しむことができた。私は話すことが得意ではないが、向こうからたくさん話しかけてくれたので、緊張せず過ごすことができて良かった。また、食堂の店員の方がおすすめメニューを教えてくれて、色々なインドネシア料理を食べることができた。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

初めは不安な気持ちもあるかもしれませんが、ガジャ・マダ大学の人々は優しく、話しやすい人が多いので、緊張することなく過ごすことができます。大学周辺には、飲食店やショッピングモールなど生活に必要なものを買うことができる環境がそろっており、とても便利です。また、美術館や遺跡などインドネシア文化を知ることができる場所に行くこともできます。また、インドネシア料理はとてもおいしいので、様々な料理を試してみてください。辛い料理が苦手な人は注意すること。楽しみながら、様々なことを学んでみてください。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2023年8月から2023年12月
派遣大学名	ガジャマダ大学	所属学部等	

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Marine biology	PIA20191151	2	内容は容易だった。専門用語も難しくない。
Agricultural sociology	PNP1101	2	プレゼンやグループワークが多い。テストは容易。生徒主体だった。
Microbial bioremediation in agriculture	PNM20193121	2	内容が難しかった。範囲も広い。
Egg science and Technology	PTH2115306	2	実験は容易。テストは範囲が広がった。
Traditional fermented food of Indonesia	PNM20193122	2	プレゼンが多かった。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00	Traditional fermented food of Indonesia		Egg science and Technology				
08:00							
09:00							
10:00			Agricultural sociology	Marine biology	Microbial bioremediation in agriculture		
11:00							
12:00							
13:00							
集中講義等	Egg science and technology 10/21,22,23						

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他			○		
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：シラバスがもらえるのはだいたいテスト前ギリギリのことが多かったので、テスト対策に苦勞した。また、グループワークが多い授業もあったが、現地のインドネシア人がきちんと協力してくれるので安心。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）： 私は比較的綺麗なアパートを選んだので、住み心地はよかったが、電気が止まったりキッチンが使えなくなったりしたトラブルもあった。大家さんはインドネシア語しか話せない場合が多いので、現地の学生に助けてもらうか、翻訳機を使ってコミュニケーションをとるしかない。</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

インドネシアの伝統的な発酵食品について学んだ。テンペなどの日本の食べ物の似た食品もあったが大体の食品が初めて知るような食品ばかりでとても勉強になった。授業で学んだ食品は実際に食べてみることでより理解が深めることができた。その他は海洋学や、卵の衛生管理について、農薬など学ぶ分野は様々であったが、難易度的にはそこまで高くなかったので毎回の復習で授業についていけなくなることはあまりなかった。しかし、専門用語はととても多いので、そのたびに調べ理解する必要があった。

地域の学生が学ぶような農業社会学について学ぶ場面があった。これはほとんどが初めて学ぶ内容であったため、授業についていくのに苦労した。

UGMではフィールドワークもあったが、インドネシアの特産品である、ココアや茶の製造について、実際に工場や畑などを訪れて製造現場を見ることでより深い理解につながったと思う。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

課題はやや多かったため、わからない部分はすぐに現地の学生に質問した。みんな優しいためだいたいが対応してくれたが、現地の学生でもわからない場面も多かったため、先生との連絡手段をもっと早く確保しておくべきだったと思う。現地の学生とはwhatsappやインスタグラムを通して連絡を取り合っていた。授業の際に積極的に連絡先を交換しておくことで、仲良くなったり、授業中のグループワークでスムーズに意思疎通ができたりした。

履修科目について、私たちの代では地域の学生もいたため、地域の内容の授業も履修した。ほぼ知らない内容だったため、地域の学生と協力する必要があった点はとても苦労した。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

現地の学生はムスリムがほとんどだったので、文化について知る機会が多くあった。毎日の五回ものお祈りや食の制限など私は今まで生きてきた中で宗教に関して全く触れてこなかったので、新たな価値観に驚いた。

またインドネシアではLGBTQに関してまだ受け入れられてない部分が多く、直接LGBTQの人と話すことで多様性に関する現状を知ることができた。

観光地に行くと物乞いの人が多くいて、その人たちの姿に衝撃を受けた。私の今の環境は当たり前ではないことを再認識し、感謝しなくてはならないと思えた。

これらは日本では絶対に経験できないことなのでとても勉強になった。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

インドネシア人はみんな楽観的で普段から人と人の繋がりを大切にしているように思えた。街中ではみんな道端で談笑していたし、大学内でも一人である学生は少なかった。日本とは確かに貧富の差を感じたが、それでも日本よりも幸せそうにしている人が多かった。日本人は仕事をとても重要視しているが、インドネシアでは副業をすることは当たり前で日本人のように仕事中心に生活していない。インドネシア人はいい意味で全てをそこまで重く捉えていない。自殺率がとても高い日本人はこれを見習うべきだと思った。日本人のように真面目に誠実に生きることとても素敵な文化だが、楽観的であることで見えてくることもあると感じた。これからインドネシア人の人に対して寛容で、人を助けることを"してあげている"と感じていない思いやりの面を見習いたい。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

UGMはとてもレベルが高い大学なので、とても真面目な学生が多かったように思う。授業や課題に積極的に取り組む姿勢に感化されることが多かった。また、私の出会った人のほとんどが親切でとても良くしてくれた。これはインドネシア人の国民性なのかもしれないが、これに助けられた面は多く合った。現地の教授と出会ったからはとても良くしてくれて、彼と出会わなければできなかったさまざまな貴重な経験ができた。日本に対して興味を持っている学生も多く、日本語で話したりアニメや漫画について話したり、自分自身では知り得なかった日本文化について知る面もあり新たな発見につながった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

留学前はとても不安に思っていたコミュニケーションだが、インドネシア人はみんなとても親切で、積極的に話しかけてもらえる。彼らと話すためにもっと英語を勉強しておけば良かったと後悔したので、英語については思っている以上に対策することをおすすめします。またインドネシア語についても簡単な単語は覚えて行けば良かったと後悔したのでその辺についても対策した方がいいです。たくさん世界遺産が大学近くにあるので仲良くなった現地の学生と一緒に訪れて彼らの文化について理解する場面が多くあります。積極的であれば、現地の学生が力になってくれるので困ることはほとんどないです。約5ヶ月間楽しんで！

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）





海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	地域総合農学科	コース	地域共生コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2023年8月から2023年12月
派遣大学名	ガジャマダ大学	所属学部等	農学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Traditional Fermented Food of Indonesia	PIA 20191151	2	難しくない。時々される日本の発酵食品に関する質問に答えることはあった。
Agricultural Sociology	PNP 1101	2	試験は難しくないが、グループワークと意見、質問を求められる機会は多かった。
Marine Biology	PIA 20191151	2	最初の頃は知らない単語が多く、授業が難しいと感じることもあったが、慣れればそこまで難しくない。
Microbial Bioremediation in Agriculture	PNM20193121	2	この科目が履修した授業の中で一番難しかった。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00	Traditional						
08:00	Fermented Food of Indonesia						
09:00			Agricultural Sociology	Marine Biology	Microbial Bioremediation in Agriculture		
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
集中講義等	集中講義ではありませんが、一度、二泊三日の field trip に行った。						

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Traditional fermented food of Indonesia の授業では、主にインドネシアの伝統的な発酵食品に関して学んだ。テンペと呼ばれる日本の納豆に似た食べ物やパイナップルやランブタンから作られるワインなどがインドネシアには存在する。それらの食べ物の作り方や微生物について学んだ。

Agricultural sociology では、ソーシャルキャピタルの要素や農業におけるジェンダー問題などを学んだ。今まで学んできた社会学の授業と被る内容もあれば、インドネシアの農業社会学に関して初めて学ぶものもあった。また、日本の農業とインドネシアの農業に関する比較のグループプレゼンテーションを行なった。

Marine biology では、水の熱容量、塩分や大陸移動説に関する内容だった。また、マングローブ、珊瑚礁、海藻に関する授業もあった。その後、マングローブ、珊瑚礁または海藻に関するグループプレゼンテーションを行った。

Microbial bioremediation in agriculture は重金属や植物によるバイオレメディエーション、土壌の硝酸塩汚染、農業廃棄物などに関する授業だった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

阿見キャンパスに UGM の学生が何名か留学に来ていたため、AIMS プログラムで履修できる授業の一覧を一緒に見て、意見をもらっていた。また、留学先でどんなことを学びたいのかなるべく明確にしてから履修登録をした。

反省点としては、履修する科目を決めすぎてしまったということだ。AIMS プログラムのサイト等に載っている履修できる授業というのは、実際に開講されるかわからない授業も少なくない。インドネシア語開講のものもあった。私が履修しようとしていた授業のほとんどが、開講されなくなったまたは、インドネシア語開講のため履修できないということが起きた。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

インドネシアの宗教はほとんどがイスラム教だ。しかし、どの程度イスラム教を信仰するかは人によるようだ。アルコールや豚肉を厳格に禁止し、一日五回必ず礼拝する人もいれば、お祈りすることはほとんどなく、お酒を飲む人もいた。全員が厳格にイスラム教を信仰しているのかと思っていたが、どの程度信仰するかはその人の自由だということがわかった。

また、日本に比べて遠回しに表現する習慣があまりない。はっきり断っても嫌な顔をされることはないので、食事や遊びに誘われた時に、行きたくない場合ははっきりと断ることが大切だと思った。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

今回の留学で、多少自分の思っていること、考えていることが表現できなくても、ジェスチャーなどをすることで相手とコミュニケーションを取ることにはできることを学んだ。私は留学が終わった後も継続して外国人と交流をして、語学力の上昇と視野を広げていきたいと考えている。

私が所属している研究室は、インドネシア人や中国人が数名いる。自分の研究だけでなく、その人たちと積極的にコミュニケーションを取っていきたい。

将来、自分がどんな仕事をしていくかはまだわからないが、仕事を始めた後も継続して外国人と関わりを持ちたいと思っている。外国人とコミュニケーションをとり、自分の語学力の上昇と視野を広げていきたい。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

今回の留学では、バディーと友人に恵まれていた。私のバディーとは履修している授業の半分被っており、わからないこと、不安なことがあったらすぐに相談できた。他のバディーとも交流する機会があり、食事を一緒にしたり、どこかへ遊びに連れてってもらったりすることが多くあった。

同じように AIMS プログラムで留学に来ているフィリピン人、ベトナム人や現地のインドネシア人も非常にフレンドリーに接してくれた。遊びに行くだけでなく、授業中にわからないことがあったときに助けてもらうことも多々あった。そのため、わからないことや不安なことを相談できないということが少なかったと思う。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

私は現地の食事でお腹を壊すということにはなかったが、何度か高熱を出した。友達が何度かお腹を下していた。そのため、日本から前もって薬をもっていった方がいい。

日本で買うのと比べると若干高いが、現地のモールに日本のシャンプー、リンス、ボディソープや基礎化粧品は結構売っている。それらの消耗品はそこまで日本から持っていく必要はない。

大学内は英語が話せるインドネシア人がほとんどだが、モールやカフェに行くと英語が話せない人も少なくない。そのため、もし余力があるのなら、数字などの簡単なインドネシア語を前もって覚えておくといい。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）

